

平成 30 年度滋賀県がん診療連携協議会・第 1 回診療支援部会 議事概要

日 時 平成 30 年 6 月 12 日 (火) 18 時 00 分～18 時 45 分

場 所 滋賀医科大学医学部附属病院 4 階 第 4 会議室

出席者 谷眞至 (滋賀医科大学医学部附属病院)

南部卓三 (公立甲賀病院)

林嘉彦 (市立長浜病院)

小泉聡 (高島市民病院)

青木悦雄 (市立大津市民病院)

山本寛 (草津総合病院)

重松忠 (代理：日置) (済生会滋賀県病院)

石川博己 (近江八幡市立総合医療センター)

駒井康伸 (長浜赤十字病院)

目片英治 (東近江総合医療センター)

重永博 (滋賀県医師会)

松井泰成 (滋賀県歯科医師会)

小杉奈緒 (滋賀県薬剤師会)

吉村雅寛 (滋賀県放射線技師会)

寺田智祐 (滋賀県病院薬剤師会)

山本伸子 (滋賀県歯科衛生士会)

山内智香子 (滋賀県放射線治療連絡協議会)

川邊義巳 (滋賀県立総合病院)

欠席者 土井隆一郎 (大津赤十字病院)

川上賢三 (滋賀県立総合病院)

來住優輝 (彦根市立病院)

三上房枝 (滋賀県看護協会)

山本伸子 (滋賀県歯科衛生士会)

野坂明子 (滋賀県健康医療福祉部)

醍醐弥太郎 (滋賀医科大学医学部附属病院)

オブザーバー 菊井津多子 (滋賀県がん患者団体連絡協議会)

(敬称略)

1. 報告等

(1) 部会員の交替等

部会長から、次の交替部会員の紹介があり、自己紹介があった。

滋賀県立総合病院 川邊 義巳 財務企画室 主任主事

また、がん患者団体連絡協議会からオブザーバーとして参加いただいていることの紹介があった。

部会長から、診療支援部会の役割について次の項目について確認があった。

- (1) がん診療連携拠点病院等のがん診療に関する機能分担の評価に関すること
- (2) がん医療の質の向上に向けたアウトカム評価に関すること
- (3) 高度医療の推進に関すること（がん治療に関する治験・臨床試験を含む）
- (4) その他診療支援に関すること

前回の部会（平成30年2月13日開催）の議事概要について、ご意見等があれば事務局までご連絡いただきたいとの依頼があった。

2. 議題

(1) 平成30年度の取組について

1) アクションプランについて（資料1）

平成30年度より、がん対策推進計画の第3期がスタートし、期間が6年間となっている。平成30年度アクションプランについて、実施施策及び年間スケジュールを確認した。

実施施策については、昨年の実施施策のうち「診療支援推進の仕組みの検討等」と「メーリングリストの利用によるネットワークの構築」を削除し、新たに「がんゲノム情報の確認」と「若年性妊孕性温存の取組」を追加し、下記のとおりとなった。

- ・高度ながん医療について
- ・がん診療連携拠点病院等のがん診療に関する機能分担の評価の検討
- ・がん医療の質の向上に向けたアウトカム評価の検討
- ・各団体の取組を把握していく
- ・HPの拡充
- ・がんゲノム情報の確認
- ・若年性妊孕性温存の取組

また、年間スケジュールについては、部会を3回開催し、平成30年度の施策に沿って進めていくこととなった。

2) PDCAサイクルについて（資料2）

平成30年度における診療支援部会のPDCAサイクルのPlan（計画）については、数字で表せるものとして、「がん情報サイトの閲覧回数」を指標とし、サイトの充実に向け活動していくこととした。

3) 「がん診療連携拠点病院等のがん診療に関する機能分担の評価の検討」、「がん医療の質の向上に向けたアウトカム評価の検討」について（資料3-1、2、3、4）

各病院のホームページで、がんに関するトピックスとして掲載しているものを「がん診療に関するトピックス」としてまとめ、新着情報順（資料3-1）、医療圏別、病院別（資料3-2）にまとめている。内容を確認いただき、訂正等あれば連絡いただきたい。

資料3-3に、がん情報がへの掲載場所を提示しているので確認いただきたい。

資料3-4は、滋賀県におけるがん検診の実施状況をまとめたもので、検診のきっかけになるよう、話題提供としてあげた。

4) 高度ながん医療について (資料4-1、2、3)

資料4-1は医療技術別、資料4-2は医療機関別となっている。前回疾患別の方がわかりやすいとのご意見をいただき、今回新たに臓器別に並び替えたものが資料4-3となっている。表の見せ方について、本日全ての項目を検討することは時間的に難しいので、肝臓がんを例にご検討いただきたい。原発性がんと転移性がんを分けるのか、逆に分けるとわかりにくいのか、(案1)(案2)(案3)を参考にして決めていただき、決まれば他の疾患についても同様の表記としたい。

各委員等より次の意見が出された。

- ・適応については、担当医に確認するため、どの医療機関で行っているのかがわかればよいのであれば、(案1)がわかりやすいのではないかと。
- ・患者は、原発性、転移性と言ってもわかりにくいので、(案1)がよいと思う。
- ・分けるほどわかりにくいのではないかと。適応については、病院を受診し、相談して決めるので、大きくまとめて(案1)を標準として、他の疾患もこれに準じて作成してはどうか。
- ・肝臓がんの対応診療科に泌尿器科、婦人科が含まれているのはおかしいのではないかと。
→元の一覧表よりそのままソートしており、このような表示となっている。
- ・病院名の「大津市民病院」を「市立大津市民病院」に訂正をお願いしたい。
- ・肝臓に関していうと、放射線のIVRの治療やラジオ波治療は、高度な治療ではないため掲載していないと思うが、これだけを見ると、本来であればいろいろな選択肢があるにもかかわらず、患者を治療で誘導するのではないかと。
→保険診療として多くの病院で行っているものは、ここにはあがっていない。何を高度とするのかの定義付けについては、以前より議論していただいているが難しい。高度なとして「医療技術名」を絞っているが、復活したほうがよい等ご意見をいただき、検討して修正していきたい。
- ・疾患別の場合、IVRに関して言えば、肝臓だけに限られるので項目としてあげてはどうか。
- ・この部会では高度ながん医療について取り上げられているが、いきなり高度な治療ではなく、その前に疾患別の一般的な治療のフローチャートをあげて、その先に高度ながん医療であるこのページにいけるようにしたほうが、一般の患者がサイトから検索する場合に見やすく探しやすいのではないかと。
- ・フローチャートを書き込むのは難しいので、該当する疾病のガイドラインのURL等を載せてはどうか。
→ガイドラインは、一般の方には複雑でわかりにくいのではないかと。
- ・胃がん早期であれば、まず内視鏡手術、早期以外であれば外科手術、抗がん剤との併用など、一般的に行われていることがどこにも載っていない。病院での医師の説明と違うことで患者が混乱するのではないかと。高度ながん医療はそのままにして、それとは別に、その前段階が必要ではないかと。
- ・診療支援部会がすすめるべきは、徹底的に標準的な治療であると確信している。標準治療ができない人が高度ながん医療となり、この標準治療を差し置いて、いきなり高度ながん医療として聞きなれない治療をみても、かえって混乱し参考にならないのではないかと。

→本部会の役割として、「高度医療の推進に関すること」となっているが、ホームページをみている方の立場からするとそのとおりである。ホームページの構成をどうするか等、県と相談する。

- ・標準治療について、他の部会で担当しているところがないのであればこの部会でやるべきではないか。
 - ・滋賀県のがん情報しがの「がんを治す」の下の、「最新の治療を受ける」の前に、まずは標準治療について詳しくしっかり丁寧に載せたうえで、滋賀県で行っている高度ながん医療を載せてはどうか。
- 滋賀県のがん情報しがの「がんを治す」に掲載することについては、後日県に確認する。

資料4-1, 4-2については、持ち帰っていただき抜けや間違いがないかを確認していただき事務局まで連絡いただきたい。

5) 各団体の取組について（資料5）

各団体の取組については、他の部会でも報告されているが、一部参加団体や部会員が異なるため、両方の部会で報告したい、との説明があった。

引き続き、各団体から本年度の取組について報告があった。

（滋賀県医師会）

- ・他団体から依頼のあった研修会などは積極的に後援する。
- ・「がん関連」の研修会の内容を滋賀県医師会報に掲載し、会員に周知する。
- ・「5大がん地域連携パス」を有効に活用するため、会員に周知する。
- ・研修会については、各地域主体の取り組みをしっかりとバックアップする。

（滋賀県歯科医師会）

- ・「口腔がんチェック」を平成30年3月より実施している。「口腔がんチェック推進歯科医院」が、現時点で129施設有り、引き続き募集して実施歯科医院を増やしていく。推進歯科医院からの実施報告を集計・分析し、今後の事業展開につなげる。
- ・がん患者の口腔ケアに係る医科歯科連携の推進で、「連携登録歯科医療機関」が現在66施設有り、引き続き実施する。
- ・歯科医師等派遣委託事業については、済生会滋賀県病院で歯科医師を雇われたため、現在がんの周術期の派遣はなく取組から外した。

（滋賀県薬剤師会）

- ・滋賀県薬剤師会認定の「在宅ホスピス薬剤師」のフォローアップ研修会では、抗がん剤や緩和ケアについての研修を行っている。
- ・薬局機能情報サイトの継続運用を行っている。
- ・各病院で開催されるがん関連の研修会へ積極的に参加する。

（滋賀県放射線技師会）

- ・他団体からの研修会に積極的に後援を行う。
- ・来年1月26日にピアザ淡海にて「乳がん」をテーマとした研修会と市民公開講座を開催予定。
- ・7つの専門研究会においては、前年度に引き続き、がん診療に役立つテーマで研究会を開催する。

(滋賀県病院薬剤師会)

- ・様々な研修会を行い、病院の薬剤師のグレードアップの研修会、あるいは薬局薬剤師との情報共有を含めた研修会を行い、全体の底上げを図り診療の支援をしていきたい。

(滋賀県歯科衛生士会)

- ・例年行ってきた生涯研修会について、今年度は計画中であるが、「がん医療」の研修会への参加については積極的に勧める。
- ・病院に勤務する歯科衛生士の技術、知識向上のためのスキルアップ研修を積極的に開催しており、がん医療に伴う口腔ケア、周術期の口腔管理を重視している。

(滋賀県放射線治療連絡協議会)

- ・放射線治療施設の連携をはかっていく。
- ・例年、年に2回の連絡協議会ならびに協議会主催の研究会を開催しており、直近では7月14日に彦根市民病院で開催を予定している。

6) HPの拡充(資料6)

部会長から、本部会の数値目標となっている、県のホームページ「がん情報しが」のアクセス状況について、伸びの悪い項目もあり、改善して数字のアップを図っていきたい。伸び率は、イベント、予防と検診、セミナーの順となっている。

(2) その他

1) 滋賀県からの情報提供

部会長より、「滋賀県がん対策推進計画(第3期)」の概要について、滋賀県から説明していただくべきところであるが、本日は欠席のため、資料をお目通しいただきたいこと、また、滋賀県の第3期の概要には、がんゲノムや妊孕性についてもあがっており、この部会で取り上げていきたい、との説明があった。

最後に、部会員より、PDCAサイクルのPlan(計画)として、がん情報サイトの閲覧回数で評価していることはそれでよいが、果たしてそれだけでよいのか疑問である、例えば、妊孕性について言えば、滋賀医大での診療実績についてのアウトカムをみてもよいのではないかと、との意見が出された。

これに対し部会長より、本来は診療のレベルがどうかなどであるが、ゲノムに関しても、今後大きく変化していくのでPDCAサイクルにあげるのは難しく、数字として表せるものとしてアクセス数としているが、他に何か数字で表せるものがあればご提案いただきたい、と

の依頼があった。

また、部会員より、先程意見が出されていた、がん情報しがに関して、滋賀県内の医療機関の情報を掲載するので、標準治療ができない場合に県内でできる高度な医療となるが、県内の情報だけでは患者のニーズに答えられないのではないか、との意見が出された。

2) がん患者団体連絡協議会から、

再発や転移した患者には大きな負担がかかるうえ、高度医療に加えて再発、転移の治療に関する情報を得るのが難しい。4月から、県立総合病院で「こころ」という再発のサロンを始めたが、「臨床試験・治験」についての話題が多く、滋賀県においてもより高度な医療を推進していただくようお願いしたい。

【配布資料】

- (資料1) 滋賀県がん診療連携協議会アクションプランシート (診療支援部会)
- (資料2) 平成30年度滋賀県がん診療連携協議会PDCAチェックリスト (診療支援部会)
- (資料3-1) がん診療に関するトピックス (新着情報順)
- (資料3-2) がん診療に関するトピックス (医療圏別、病院別)
- (資料3-3) 高度ながん医療、がん診療に関するトピックス 掲載場所
- (資料3-4) 滋賀県におけるがん検診実施状況 (抜粋)
- (資料4-1) 高度ながん医療一覧
- (資料4-2) 高度ながん医療一覧 (病院別)
- (資料4-3) 高度ながん医療一覧 (疾病別)
- (資料5) 平成30年度 各団体取組予定
- (資料6) 「がん情報しが」アクセス状況

【参考資料】

- (参考1) 診療支援部会 部会員名簿
- (参考2) 滋賀県がん診療連携協議会について
- (参考3) 前回議事概要 (平成29年度 第3回診療支援部会 2月13日開催分)